



冠句海老見
五四
介

30

3869
105



冠句海老見

五四

介

へ9
3869
105

柳江庵主人撰

大正七年三月廿一日
室井平藏氏贈

海壽之み

四編

書肆

萬卷堂梓



猿月	けふのたびが月山終る	栢枝
曉月付	三窓下針の糸巻どく	石光色
夕伸し	庭の杖の影あつて	自在
途へ来たり	おびへて又記され	三笑
船舟の影	舟のうらさへて	妓楽色
志やべの始	うらさへて	酒田村
口舌あふ	かけとらんが	巴人
あまのさう	附てあまの	塙介色
袖のき痛	のまのさふ	来山
庭ごさ	雲量好く	其峰

3869
105

螢	足せよ来るる子の喜(送)	言田也
蜻蛉	圓扇の先よとくく	新丸
新下口舌	ぞぞと砕く歩り出	柏光
独りおつく	仕さねてみる店おろ	一枝也
羞えの物	いよ川との過(世川)	号存
よんべの連	登ろりて足せよ高(比)	秀光
ゆり記	喜の喧嘩をそが	其峰
お百夜の娘	とれおれおれおれ	号存
お福の娘	あまざけうりが仲人	柳雨也
脛さがり	地居も申うぬ山と	二瓶

雪の翌日	動るふとあうくさいあり	梅梢也
日よけて来り	姉の形しど嘆が出ぬ	車山
逆おれ	越後柳子と茶う	初染
紫猿あう	眠り巾着の羞ふら	号存
子話ごまき	又体へあう様もせ	其峰
小借家の娘	死つて出ると身ごとあ	幸舎也
小満立	ひよもいさうさ下あ	下有
新男	一寸の経よ度川	松立
田代お	あしあけの鼻かけて	赤巻
ぼてまん後	坂小かんやと記	三寿也

丘へあがり 月とまげ星おのろてり 大山
 梶子先の 奥で鳴るるが耳 ヤブ 赤塚
 ぬりまじれ お泊り立へ 猿馬 ぶ 鬼山
 歌と撰 待おけくろく 津追く 木麿也
たのまねて 巨魁と志山と抱へく 子樂
おのり 引くくらせ 浪かんのので 狗がそく 翠柳
 酒の峰 日 坊の者ぶやと 出まゝ 二矢也
 西隣 法記して 経枕ぬく 未山
 是終りて 鼻毛の長さたれく 其峰也
 判人の ちいさき 類でぬく 号宿

初時雨 春ふたりあう晴てり 号宿也
 勃しと喚 あり以てうらうえせけり 龜山
 教くお蔵 福り香くさく 寂庵 寂村 南乐也
 ぬらまの かさよ ちんむのうふと 産あり 三矢
 天の川 かさよ 龍川と牛接てけり 号宿
 英く おん 親孝のの君が 等く 三壽也
 少耳 おん 海のこゝで 咽が 鳴る 村中村 柿月
 地獄の飛脚 繩で釘ぬき 提てり 玉井
 かんぐし ちつとつけ けく 怪直 三香
 緋 ちつと ちつとつけ けく 怪直 三香

春の花	上りの花へきて見	松雪
志やべの妓	まじり出でてうき砂	水真色芭
春代と	そりり飽く後や次	湖琴
二王の	地づきのあやゆき	山目
毛判の六	元せぬり見て黄を	一枝
状記り	天窓へあそび吹く	花曉
いんげん	かざれてとちま	初巻
簡大王の	喰ふ故をふせ	司光
風いあぐ	此あつちを	山甫芭
	わりおけ	弓馬

ハツ下り	あめのまづ	朝まけ	幸舎芭
鳩の月舟	吸はさ	ふつこ	石光
まんく	習のね	きんどう	素人
町らね	かどけ	子	何用
まらん	村下	胡	を
袂のあ	糸代	か	いて
嘯	川	産	う
弱と	冬	折	船
猫	乳	女	と
誘引	ま	ん	が

大 山 井 松 堂 芭

千代母崎	吸う一里の及々抱く	山司色
ぶし柵灯	志願つく強と及せたり	下阪田
至りし小嘆	きんとのおらつて天窓くく	香保
つぎの女	膝へちる経つぐね	親丸
二百儲ふけ	どんぐり握てゆく妻	鶴連
まぶくはす	おぼく丸て親連	幸舎
香月のお袋	乳のこ子抱て申さる	花吉
うぬ懐	今おも癪ふ山く	山司色
鼻の先は怪人	安物買ふとあやう	号在
あまはる	目まぬまに指さる	花吉

香保ふり	初ふり山く	花吉
吸房く女房	ねびさくつてあつて	其峯
立初と	鼻の表月あひ	親丸
あぶく	又あふけく下娘けぬ	千代表
空とあひ女	あびざりておはつ	水月
付おけ	巨魁くつてわく	五宗
あつて	二階の二入り	二瓶色
あつて	店の親向く箸持たり	龜眼
あつて	くねぬとろく	号在
あつて	裾へ吹風おやこ	全

晴る方 雲の松くま多紀 五泉
まもころさぬ おき山きこく 新丸
 何く肩がまふつう 号者
 行玉帯てわんご 二瓶
 伴咲山わど白ハクシ 巴扇
 疑ひうけて唐山 子代
 狼の下と乞がまの 鬼山
 狭し尾のきり場え 茶月
 赤めい 吹つける火で光らうし 自立
 七 師 廣祝けハ美の子さく 高泉

天狗 西側がくま 又休む 五泉
 空を浴びし 露の屋ナサにわいてる 花香
 びんつき 白とかいこんでぬくど 南舟
 語り者 吐かぬと消さぐ 塚中村
 吸ひ付言 岩中へるがつきあ 呉雀
 度路の女房 とう込らつて舌とぬれ 塙介
 近てま三人 眼かあまゝわぐ生皮ナ 松逸
 それとまらつ やれと母親あがや 古柳
 とうこや 東あべけが来てまげと 赤月
 合ふあさ つんがどやあんとおれと 玉照

蝉の夢 滝のおくれでこそぐ 母ト芭
 言地持男 ハイ仕る場へそのも 鳩介
 弟お強 持さげんで神縄とく 今
 かきまかき 懐きよ子のあんまつとあり 谷あ、
 幸の夜 下女百持てまむあり 母ト、
 持子先の吐く 為ふあるありそま 秀持、
 糸舌ふまらせ 仲人本か膝あつてり 司光
 待道屋 為部とふ氣がつらぬ 山泉芭
 孫の神人 かしこスカベけあつらぬ 一校、
 ちよじとく せうろうくげておめき 鳩介

天へ飛上り かり捨てて又て配いとく 号者芭
 鼻毛延し 妾がむかへる代鳴ぶ 号者
 出入の大工 次龜の女後ふすの 若香芭
 何喰ぬ糸 娘のきり持てまらぬ 花き
 関吉 同かき一ッかいあうら 秀持芭
 天窓 溜ふとこんがかりき 秀泉
 井戸と堀 周倉柏子で白ハクリ 秀光
 待せくを ちかさつと後印とくき 若香
 二夜つり 月つがふあつて屋おれ 湖琴芭
 取持とく 早ふ拂つて登しとく 号者
 中の隣り

暖簾まづ 高藤まつふる見とる 五月廿七
 せねて中 切り出し候りきこが 無花
 出のち七 おうん 花女
 且那のあま 小石物を予時よりし 荃を色
 うーちう 月の人めにかくれり 夢橋
 園の者の 庫裏のあまを交化す 松園
 めくらの 月歌馬とかんぐ 飛車
 にあ 出とん 田刀
 将くと 折く おくけと考 法書
 喜きに村 振りつけ 号者

鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 とんがとうおが 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 怖くは 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 赤くは 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 今お事と 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 神下らん 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 粉挽の味 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 お先よ 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 鍋来が 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ

鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 とんがとうおが 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 怖くは 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 赤くは 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 今お事と 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 神下らん 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 粉挽の味 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 お先よ 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ
 鍋来が 鼻毛よ 鼻毛よ 鼻毛よ

天窓あまのまど 雲が咲

長口上

類あまの 明あまの 母

眠あまの 眼あまの 母

命あまの 母

解あまの 母

ほあまの 母

やあまの 母

毛むしめびとあんど

首めふまへを足付

情くまのといひつ

ちんせの結ま

解く山とあそ

かろくま

一日おち

あんこ

五月色

木枝

浦あまの 母

古あまの 母

其あまの 母

每あまの 母

弓馬

花あまの 母

小あまの 母

馬あまの 母

ハツ頃

庭あまの 母

望あまの 母

ふと

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

山あまの 母

二あまの 母

松あまの 母

一あまの 母

林あまの 母

林あまの 母

白あまの 母

赤あまの 母

赤あまの 母

赤あまの 母

一 震痛かけの月夜の一技色
 標の為附かけたる全
 用のある時やおぬえ 歌天色
 居れ ね ね ね ね ね ね ね ね
 多涙さちぎり お樸元も合志さうふむ 五泉、
 禅一ツで 晩秋ふさる訂申さる 鳩介、
 ちやまれの申 添へて述さるる由る 花寺、
 墨さうぬが 菟の跡所老ま流が 古松色、
 引ひり 肉中 で記がらちりん 大山連、
 情まほる記 ちづる ちづる ちづる ちづる ちづる ちづる ちづる
 親の乳入 肉で之をツ散さるる 五眼、

さ申す月 菰を這ひ出で騎葉ふ 弓馬色
 劫高島家 以てあふ月と暮れ推す 手楽、
 声の自悟 解ふぶふとまを履るる 谷水、
 の山より娘 昔話とやぬる前わりの 湖琴、
 素の形 幕のあつせに法抄の 生矢、
 子と色し 誰と疾山に喚記に 西在、
 函て書こふ 筆と象木で喰てぬる 曉里、
 ありま 記うけらるる志さるる 上牧村色、
 光 かいこまきてり喰ぬぬり 村中村、
 鳴り好 交く 舌部るる 紫若、

夏の夕ぐれ 抱て来し子とくべ今よ 里水色
 燈るある娘 侵の夏は柳たのせ 玉井、
 出度り娘 眼とつく日傘たませる 榎江村、
 赤出の 半澤志きけをい出に 戸部村、
 元揚海と井 高付ともも能くある 新丸色
 やうつさ西一 水つねく角力をげいある 坊屋、
 巨魁の子話 白濁のんぶ狗おどろ女 山司、
 遠の食下 芝しつてらとる人とのむ 一存
 出入の茶具屋 新母の口おわやーがら 号雀、

元と山と下女 今くものを行けは 鳩弁色
 とむしり 妾宅の下女憎まゆゑ 其峯
 犯麻入 たびこ吞れて志まのり 二笑色
 引き出す薬 のさざり色てまにのゝぬ 花月、
 むつと旦の 眉毛落しと鏡返く 又 馬突、
 妙十郎とく ちり服辯多しと人をい 子空
 切てくわがび 留時出くまぬ春がやめり 未山、
 待せく益キ 赤つんと响てアヤやぶ 未丸、
 がさの止しめちよ 又死て来しと湯をたけよ 大山 雀連、
 ありとせげ 運い酒うゝやまひつく 太、亭

本より先 日和の飽め入りえり 子室色
 群がとり 以てぬまは 月かきぬ 初樂、
 寺着しと 上りのりきとくあききき 末山、
 かりは子 後か一物集せてあき 全
 お妓のふり日 出あきしるおと噂志やべり 湖琴、
 ぬるん仲お 志くきとて 酒のまぬ 号六、
 立ゆり 柳打が来てきりあき 初樂
 かこりて 足さふかおん茶とゆに 竜玉色
 天宮のふり 志くきとて 酒のまぬ 三壽、
 おとまり出来 志くきとて 酒のまぬ 全
 不ふりてあき娘 志くきとて 酒のまぬ 全

足室が深 淋しき花の記がうらみ いろを色
 男はゆり 初ひたてりてあき 犬山連、
 質屋のあき 悪名んらつかさく 号雀、
 請出しとあ 志くきとて 酒のまぬ 龍水、
 麻む者の仲お あつ知で目の志が拂ふ 全
 子もさ 笑ふ子供がまへり 生笑、
 丸裸 出せきる先娘の 累 後枝、
 産つくと内長 人か耳くそおせし 松園、
 以つと鼻 請出は後でふきと 松逸、
 出好の娘 ハイ千くらさ裏肥てあき 飛上、

約きる夕ア
 ちつつく浪小月がまけり
 松の末は色
 ねむり報
 返り下女かまてある
 ヤブ
 英別
 たんくと
 子飼あがりか尾かえり
 多良賀村
 利倉むり
 徳利と二人おのり
 妓樂
 火弁元出
 馬呵るあつ男めく
 若枝
 高の女も買
 今果、松後てある
 云月
 ぶつ松舟
 舟のあつとんとつりてく
 下井田
 ぶつ痛のト女
 舟のあつとんとつりてく
 浦樂
 ぶつと船が付
 舟のあつとんとつりてく
 多良賀村
 おとと侍
 味申あつとんとつりてく
 羽ト

既舟のあつとん
 楫の死まで利屋むる
 妓樂色
 舟のあつとん
 出果わがもあつとん
 丸丸
 ぶつとつりたう
 仲みめがねもあつとん
 大山連
 かりえの利屋
 増あはてあつとん
 東方連
 何のあつとん
 鼻が献立ちびせり
 来山
 ぶつとつり法
 口利あつとん
 全
 撰あつとん
 ぶつとつり法さつとん
 花童
 ぶつとつり法
 ちあつとん
 巴扇
 味いせり
 ぶつとつり法
 ちあつとん
 主之

雪の雲	おしきりて日々出る	五泉
おきりて	おしきりて	一枝芭
おきりて	おしきりて	玉之
尻と白け	一原入る	全
連て来て	足舟の尻拂ハせる	弓馬
あはむ	健	花水
おはむ	藤	花童
おはむ	おはむ	亀玉
おはむ	おはむ	花童
おはむ	おはむ	一枝芭

文窓か松がえ	おまのておまを焚つけ	水月色
絶るぬく	店つぎぞゆく	五泉
おまのぬく	おまのぬく	上犯文江色
おまのぬく	おまのぬく	生笑
おまのぬく	おまのぬく	千樂
おまのぬく	おまのぬく	柳若
おまのぬく	おまのぬく	雀連
おまのぬく	おまのぬく	赤光
おまのぬく	おまのぬく	三笑色
おまのぬく	おまのぬく	亀玉

不_レ山と香
 眠とささし
 さぬゆと猫
 奇宅の口女
 吹_レてあくる男
 接_レ丁の娘
 去_レのや
 奥_レの
 跡_レの如く
 といはれ
 雪解がしと後が鳴る小一花色
 山宴のゆつて跡がさかむ五泉
 ふつと鳥の白のふんがさむ
 ちま_レが_レ見_レる_レを_レふ_レて
 あくく_レと_レ鳴_レお_レて
 尻た_レり_レれ_レみ_レて_レり
 尻_レの_レ言_レく_レき_レか_レけ_レる
 か_レ汗_レ腺_レつ_レき_レつ_レて_レぬ_レる
 又_レき_レぬ_レる_レで_レあ_レま_レん
 ひ_レぢ_レんの_レ続_レめ_レし_レと_レる
 其_レ筆_レ色
 其_レ光
 り_レ正_レ色
 了_レ矢_レ
 掃_レ也_レ
 花_レ月_レ
 浦_レ舟_レ

比_レの下_レの_レ男
 結_レ返_レ屋
 赤_レの_レ女
 汗_レは_レる
 娘_レ入_レの_レ女
 雷_レの_レ女
 其_レ日_レあり
 予_レ後_レで
 禮_レ入_レ刻_レと_レり
 吾_レ舟_レの_レ垣_レが_レれ_レが_レあ_レる
 弓_レ矢_レお_レち_レて_レ出_レる_レら
 えん_レお_レが_レ古_レい_レ吐_レく
 欠_レ伸_レへ_レえ_レい_レて_レ扱_レひ_レせ_レる
 暗_レき_レと_レ猫_レが_レち_レん_レを_レ引_レく
 尻_レの_レ松_レ脂_レを_レち_レり_レと_レる
 所_レら_レれ_レあ_レる_レ子_レ傳_レ眠_レる
 死_レ持_レま_レで_レか_レぬ_レる_レま_レの
 猫_レの_レか_レら_レり_レお_レ鼻_レと_レや_レけ
 り_レら_レ八_レ二_レ里_レの_レ余_レ計_レか_レる
 三_レ寺_レ色
 いら_レと_レ
 花_レ月_レ
 下_レ井_レ田_レ
 飛_レ車_レ也_レ
 松_レ園_レ
 全
 寺_レ部
 梅_レ月_レ
 下_レ井_レ田_レ
 鯛_レ二_レ

道の青 是の終る眼と打てぬ 梅都書色
 鼻 へはか持てえ 西島
 柳あんな事 おかくの勢あんな 巴光
 羽織片よ 下とびかあ 山田
 門松 馬を 柳字
 物思ひ 猿も 子宝
 移子戸舟の 今頃 花童
 片あひ かの 花童
 二玉と角力 今 飛車
 思ひ物 月 若

どのまより 花 鶴連書
 多湯とちぎり へ 新丸
 昔子 中島村
 折下 祖父江村
 末 里敷
 へ 呉窪
 次 祖父江
 人 山司
 二玉の廊通 千樂
 素 初樂

ちりつゝ音 乍らせし門メか出る 子宝色
 かり人娘 目か正月め寝えとる 初来、
 ちりつゝ音 好におるイハエイキ、也 石松 夜夜、
 さぬく沛色 狷氣が都ト入るや、 大山正、
 追くけて ほうくくくくくくくくくく 兔尺、
 首尾とあんド 床に氣かおるしとらとら 号有
 ちりつゝ音 びびり形かも妻とまの 玉照色
 出たり ぶんやかありのみきあがる 昇井 小月、
 鬼抄 子 人さんらんげつめこ出ぬ 其牽
 お惚 一日詠へおきくぐは 多良實色

真市の端 夕月の影掃りあはれ 其牽
 舞の極つと娘 月風号入のくせがつく 樂多色
 ぶふぶふぶ 家賃くくくく放と出まは 春月、
 疑いへち中 まくさんすていりく今か ヤブ 英剛、
 つと出のト女 先及そぞめか茶碗さ、 兔尺、
 吉人親の親父 かびくそおのいし海苔いし 毎眼、
 研て戻り お噂さうせの鳥物ぬぐ 石松 子宝、
 隠みのよけ 冥利かつきて耳をい 石松 谷水、
 抱ふり寝 生ね持らぬく言床あふ 四ツヤ 鬼山
 笑りねえ 燕入ちつとやせさう 四ツヤ 孤友色

雪の夕音 雪あまんが美結くろの 老月老
 賣らぬ素の秋 けつまつれて陽くのく 寿袋、
 子下地 くるまきく旅に群とめぬ 号春
 美 後家 くるまきく旅に群とめぬ 翠杏
 鼻小鼓させ おもくろの鼻と火柱のく 五泉
 余海くく 妹の鼻のく 飛車遊
 引くつけ 孤あんの鼻と 古柳、
 貴折 換 鼻の鼻のく 一扇、
 推るすりの指古 娘で寝る鼻のく 三寿、
 鼻の鼻のく けつまつれて陽くのく 寿袋、
 鼻の鼻のく けつまつれて陽くのく 寿袋、

牡丹原か

牡丹原か 追屋ナるとして未より 五泉
 胞の事さあ ながいひぐさになんとも 電玉老
 女ささひ ちかみ 菊の鼻のく 紫雲
 許付娘 誰れもささひハせせんがう 紫雲
 耳の中お人 類群りささひハせせんがう 紫雲
 けつまつれて 化されにハせせんがう 八雨、
 お百夏の娘 花のけつまつれて 其峯
 賣らぬ素の秋 親申びの流くハせせんがう 寿袋老
 志がくく 千握 鼻のく 竹山、
 くのく 追付バハせせんがう 梅月、

照りや、月枝うつりまゝ馬何く花寺
 ぐれと縁供 中塗のまゝあつてある 号雀
 立寄 登りまてりぬ物ふある 大山色
 かりり人娘 ちぢいゆれかけり眼で听的 セキ 其柏、
 大ありの歌 甘味半おつろい 以 茶村連、
 待て居る候 灰汁かして玉ふさる 湖月、
 命忘しして 甚大根で癩起 今在 其月、
 遠のまねる 舞余弱候氣が鼻ふあす 月照、
 大とり世 笑さつゝいひふ寿進より 因田 基葉、
 一又あし 悲嫁と喧嘩して居る 花木

ぢろふゆいん 養へ初ので踊り出以 花月巻
 引とま 神ぶく消してせりふせり 神楽、
 吾折 碎くおくりの園もあす セキ 其柏、
 何れれ 安日雇いしち能ふ動く 云月、
 やるせあう 抽めかろいし裾ふふふ 清里、
 曲りつり 目覚しおておぼれし 橋連、
 ふさで居る娘 お汁と後こがし 今よ 三寿、
 花 花 店へ買ひとまひし 二篇、
 大 芋で悲嫁かおんどる 干柴、
 玉子の音 近うこゝへ書さぬる 巻玉、

川向へ 風がささふて柳葉の玉照色
 ふきんが類 もぢやうの^{アコ}と縁小右 正香、
 たりぬとこい 嘆いさいて音麻さる 千楽、
 乃男好の内交 物やうううか女きふ 基妻、
 早泊り 塔一あめははすて指^{田樂} 友枝、
 志やぶるかろ 光りかぞいさぬうけり 花月、
 草のそと山 ほけとの公管ちよかかまる 一存、
 巻らぬて 茶の所をよめんどとと 花香、
 つんがのお山 川の仲みの傍にたす 玉照、
 碑がさめ 皴のーとーとね儀者 壽保、

音流ちやうく お^{ナスナ}音流へ流風送る 蓮里色
 孫が鉢巻 彈ころよ音が押通る ぬ^{犬山} 幸松堂、
 ね基さしゆ かくの志やさるるあま 全
 性根をさく 枝らぬぬ長利世いとと 大山連、
 ねぶり 整のよごりかあうさごり 八兩、
 志やぶの孫元 出まるとは瘡 苔の 山司、
 一もんきげん 瓦附くもふ高うけ 花月、
 悟てあぬ人 場 庵ふあつういもて 石光、
 坂 ふんむる瓦一志がうつく 寿袋、
 其くせ 龜ぶりのる^{イナ}も来ぬ 柳枝、

夕月夜
男^一や^一の
海入^一形^一
眼^一ま^一に^一
時^一の^一声^一
表^一夜^一夜^一
早^一日^一
移^一子^一一^一息^一
あ^一く^一と^一是^一
花^一行^一灯^一

つよ^一新^一花^一作^一白^一い^一る
火^一い^一吹^一拂^一て^一七^一つ^一り
糠^一火^一の^一白^一い^一移^一たり
中^一路^一ホ^一ニ^一お^一没^一こ
素^一白^一の^一声^一々^一移^一り^一ゆ^一く
人^一の^一乃^一衣^一葉^一こ^一知^一れ
ち^一り^一く^一と^一萩^一咲^一け^一る
且^一那^一の^一不^一乃^一下^一持^一招^一ク
豆^一々^一く^一多^一物^一く^一庭^一よ
葡^一萄^一の^一実^一と^一吹^一た^一る

花^一水^一
四^一山^一
花^一枝^一
ウ^一タ^一ス
梅^一也^一
芝^一策^一
欲^一石^一
路^一雪^一
契^一田^一
三^一刈^一信^一村^一

除^一夜^一の^一清^一
仮^一り^一住^一居^一
一^一も^一も^一き^一ん
肩^一よ^一も^一裁^一
冬^一の^一月^一
藝^一子^一の^一親^一
極^一本^一店^一
舎^一市^一の^一男^一
屋^一風^一
怡^一賣^一

さ^一り^一さ^一と^一神^一先^一向^一て^一来^一
柿^一子^一大^一豆^一糸^一ら^一く^一心^一
如^一房^一上^一お^一福^一豆^一ら^一れ^一り
ま^一白^一十^一齒^一て^一後^一ら^一り
夕^一阪^一さ^一よ^一ゆ^一り^一り
香^一き^一に^一て^一安^一乃^一情^一
初^一よ^一お^一お^一鳴^一お^一り^一り
賣^一れ^一く^一修^一家^一と^一取^一い^一る
苗^一引^一籠^一て^一ま^一て^一お^一ん
ブ^一ツ^一ウ^一次^一舟^一と^一ま^一い^一る

鳥^一夕^一
野^一信^一村^一
山^一崎^一
下^一備^一口^一ハ
矢^一合^一
岩^一道^一
寿^一峯^一
後^一丸^一
清^一水^一村^一
柴^一田^一

馬の上

海下流

房抄

仕合身

古戦場

山本町

ちりりちり

お喋り

初流

お日の出ゆひ照とこす

さけけ指下及よこさり

縄引指し流々有れ

巨焼ういやし出て持ふ

干らうらち子焼乾く

百重のあつうへとり

海くけけ指しおれ

おしと七瓶ヲそのこまに

舟うさへく切りく

肉のよけて焼てり

魚連

下一色

大玖

長井村

一川吉田

今尾

寿宝

ナコヤ

根 聖麦

大キト

とろろ

炭賣

傳子川立

おん有かい

ぬくしお

よりるる

海もるい

歌うう

お持物

旅りり

むさふまよるるさう

糸坂あましくおしお

宿のぶやうせしお

指球しきりり

葉細く水々あしく

ゆき一塩やうしお

くりり一校桐のはた

くらけくし指し持色

着流のと一帯あ

おんあう時イあ

花を

親玉

ウタス

寿峯

各吉屋

山 耕

月士

魚

白磁

枯芦

水邊にワナを張りて

大木

破ゆれ

多枝よついでに流す

十コヤ

丸裸

糸を引ておんき結ん

魚連

小信長

おまのやうな娘あり

犬山

水晶の鹽

味ぬききりてあまらる

小川村

江戸神

氣をくさすやを喰くゆえ

不落

自ら家

坐りて油をわくまじ

下飯田

つくし

ふの種しをまきこま

鷹

ぬし

午ゆも家の鳥もつらぬ

枯枝

燗の燗

岩西并てしをせしり

瀬戸

厚氷

これ湯を煮くしる

胡蝶

大年の使

お使の打て梅と折ん

石垣

梅結の葉

片をて梅火に炙ぶ

左

シビコマ

森中をぬく菓子も危

高溪

音信

火をくさすやけて居

十コヤ

いのち

湯に入れらる白イキ

大船

音信

池に湯をくさす

白壁連

音信

音信の始末あり

初茂

音信

鉄籠へ鳥をまき

大木戸

音信

つらぬ夫をよほさる

下起 左文

水多の夜ぐぬけ
 春はよきあそびあり
 尻指してんくおきぬ
 島巡りしと吐す
 追つれて来て涙なる
 女郎はりく子怖く
 浅の香ウチツく
 笑ひあうて信り有
 は家とのまうり
 藤子の破引通
 結梗連
 左文
 大治
 友月
 大キ
 素人
 上祖文江
 ナコヤ
 ナコヤ
 哥夕

出口の町
 上きけん
 祢の身
 肩まみ拭
 梅を賣
 合雲
 涼風
 んの儘
 接木好
 杉のほき
 小降しぬし戸をぬ
 歌きどしとつせ
 日暮しをいふ
 片袖結り遠川と
 舌ははらけき
 抱いそぬわつて
 杉をぬりし人
 案のめち中果とせ
 肉はらけ来て
 ニタ子くさふ願
 魚連
 雅川
 蛙水
 下飯田
 井堀
 揮玄
 木場
 起宿
 野干
 席生

宇橋
 細帯して
 尻よりお
 クラヤけ
 宙橋
 立あき
 走らぬけ
 クラウの波
 生草十葉
 泥
 マキハ、垣根のつとよ
 吹くひまは怖し
 出揃ふ夕橋をんま
 毎の女房控ん
 吹よる浮葉泳と
 形玉五十川ちき
 几中糸言の尻
 稗の儀子肩
 葉種の上も
 マキハ、笑よまらぬ

中下
 左文
 大キト
 無尺舎
 魚連
 瀬戸
 揚東
 祖父江
 卜連
 某

巾起き
 新宅
 人目と
 氣うら
 けけ
 係血
 者の
 吹ま
 半合

せまうらぬと
 皆ら
 夕ア
 羨ど
 船人
 スカ
 大
 ぬの
 多の
 上つ

万場
 石橋村
 名古屋
 巾下
 白壁連
 梅香
 魚連
 紫麦
 白壁連
 左文

初 夢

一合女郎

下焚し

トテラ

粉糠

圃イ志

口々

黄帯

机

暖

夢で包く

言よむ

草花

雑の

浪人

暑

ナセ

信子

ひ

西一色 照月

大画

馬仙

十コヤ

一ハセ 泉

奈木戸

沢戸

今村

里夕

古渡

子程

ゆ

返

次

浪

祝

車

海

松

お

石の

柳

作

工

そ

送

歌

左

湖

お

ウタス

胡蝶

名古屋

石垣

仁井

大キト

白

一

大里村

森田村

廣イ坐敷 茶付しよれと子孫
 上文の赤 目まぬやりに這合々々
 堀端の火 割く送る外ありく
 持まけけ り多子のお主極へよ付
 伴う本後 七割とよ内叩く
 少く世の中 藝子の定ひハイ来り
 斤 思ひ 圓のるい方向く飛
 欠伸の裏技 仕人者う業より 切
 赤禪 あり割てあつたり
 場振合し ありち天賣り元て
 契田 白登連 犬山 酒泉亭 富田 親玉 巾下 猿二 山里 花蝶

日これ方 又一まうきさきさき
 ちまろと橋の 橋まの茶とス、られり
 著紅糸 戸橋子湯つとる珍々
 まい多仏 橋掛のりまう白あり
 あつたし 宵つららと送入り
 忘しせん 破人後せく母おけ
 香ありく けしむを載入り
 古の枕 朝々水蒸りて
 二のき嬉し 月とておてはさなり
 やおのれ 多和一艘後
 中のに 松城軒 白登連 左文 古渡 不及 英連 大キト 藪鷹

柘 中

あつきふさふさの目さき

川西

車曳の杖助

ほろけを捕ちてま

契田

産まゝの産

よゑてまのうさぎか

平嶋

いつまでか

柘のさうらぎを捜し

茶 芦山

子 柘

ちりりやふらふら

兵七

浮きま

ぼつておまをま

下連

まうりた

おつ糖のねた

川西

練掃り

お合へておま

犬山

ちまき

おまのま

お作

柘の

おまのま

犬山

女房を

おまのま

大キ

おまのま

おまのま

下連

大吹雪

おまのま

数鷹

眠るま

おまのま

十ニヤ

おまのま

おまのま

大木戸

ウツリ

おまのま

兵七

辻 堂

おまのま

下連

洗髪

おまのま

洗髪

おまのま

おまのま

真花

おまのま

おまのま

名古屋

阿の虫	さ〜あ〜ぬて紅雲あり	大キト
女子好	娘あつて〜ゆ〜ゆあり	今村
又刀の係	明日候福あまふぢ	下飯田
よぬけ	あぢりまふまう抱てあぢ	路雪
バツ辻	山あつて〜う〜んまふあり	大キト
娘〜いぬ	名あつて〜あ〜あ〜あ	大画
裏はは	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	山花
や〜あ〜子	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	ナコヤ
あ〜あ〜あ	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	古後
蓮華	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	金城

夕良柳	月のあつて〜あ〜あ〜あ	アツタ
今割	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	大山
廣イ中	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	契田
あ〜あ〜あ	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	某
あ〜あ〜あ	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	路雪
あ〜あ〜あ	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	名古屋
あ〜あ〜あ	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	仁井
あ〜あ〜あ	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	西
あ〜あ〜あ	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	矢
あ〜あ〜あ	あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ	矢

本のある
り月

ちつれて事しきれ巻

日光 春月

り能く

そくく小南の尻えくぬ

仁井

きりり

はま屋ま子う強てん

仁井

松山舟

男ハくくく二人あ

拾字

秋の系

おもく海てあぶく

ト連

宝鏡殿

おね実姉の都テラセ

アツタ

木の葉

葉ヲかきよ木と結紙

呂耕

你イナ

あまうけくく藤つれぬ

魚連

白斗塗

さくらの葉をまきてみ

不落

田舎裏

ゆものたうて管そく

清水村

川橋

ゆめくひゆま結くま

下一巻

京の伝舟

上六お削くおらゆ

下飯田

系你い

櫛子第うてあ

十コヤ

柳吹雪

美月一とと店観く

日光 春月

菊又

春うら系履テて並

大橋

辻

眼のあふ木く坂く

魚連

店のお

定へ木さくさり傘

下飯田

たつと

涙はあ竹の葉う泣

下飯田

む角力

こくろく夏くおてあ

下飯田

乱よめて

障子眼張うさくれ

三和連

五

三升 井里生
 三升 山月
 青柳 下飯田
 紫麦 知友
 三山連 大木戸
 大木戸

魚連 十コヤ
 白登連 大木戸
 井里生 白登連
 魚連 西
 蛙水 魚連

井極

風の勢と薄尺と紙

大城戸

一寸一尋

自給て有れをき

十コヤ

いきり水

捕更く木と給え

左文

をとり子

ホニトノ親ハあらふとい

魚連

探匠

物傷のちよぬ水より

古渡

気勢屍體

此おとて邪ノみ成

永山

川端の家

あきりま障ふ石

石橋村

物ヤの浪

ハイ家出して礼入

雀見

云乃の家

効りゆき病く茶をき

ウタス

引

志今海海あれれ

白壁連

一平所

車のあう庵をり

水鳥

能きけん

出立して来て連み

大木戸

去るの噪

奮々々木端ゆらゆら

一枕

大病瘕

換々どきく

三崎仙

坂やの中

きい出り耳よつ

知多郡

橋

古い紋付着る

下飯田

七草蒲

お天幕曇りやハイ星

枇杷嶋

流きり

ん娘く悟気

大里村

ホウク之経

中き泥漫平けきて

平直

吾仲乃

延平今下もさして

平直

白木槿	板屋のあゝ寺	白壁連
喜相娘	嫁子うらなうらな	千夕郡
糸の庵	潤そがけの鹽あゝ	千平嶋
羨美屋の	一朱出されてツリさゝ	糸生
田塚とりの	まてくまをまて	鈴水
守く娘	強入らぬに堪あゝ	柳月
せりい中	おまよせぬ念おぬ	白壁連
眼を写て	ちと合うひる調子	千夕郡
女中一志	まゝうゝ這入て	
喜庭百香	小短い洲あつて	

若木のさ	ハイ歌てかゝる	教堂
ゆのゆい	捕一イカキノ綴	下飯田
二階火あり	二人ハチク	ナコヤ
妙哉若て	色よあゝ女郎の	青峰
らくゝあ	法公の貨と	古渡
若い仲若	肩とく刃て吐	紫麦
きさのる	縁合茶屋の	胡蝶
ワ〜ハ	教〜一人拾ひ	村雀
森ふ〜	ボテフリ	下飯田
碓 賣	降ツ〜と袖拂	大キト

山はたあ	小イ柄扱々かけて有	三由連
ソリヤコウ	汁船子旗扱々有	オハタ
お老るお	袂へ二百づり着く	寸學
おやふ	着入るやうに扱々有	不落
おーくれ	森茂うね子扱々有	ソブエ
おつてお男	おひやーと二百おん	不落
おぐてお女	イマメのお茶付けて有	名古屋
おーし	人おておーとさるお	オハタ
おておの字	貸テヤるお候町と	ヨコスカ
おのの庵	お幸々やと強て有	名古屋

菓めど	吹くくくくくく	雨船
江戸の足	をてあにけりぐ	知多郡
上り扱	焚い附よら治り消ス	山友
イヤがれ	文おれ後よ承て有	ヨコスカ
おるお	田のま溝へ流れ	名古屋
およお	おんくくおんお	、
おの友	おんくく連れて出て有	、
お	とーと三層んり	鬼矢
お	おん扱くおれ	古渡
お女	歯ぐきへ紅く流れ	名古屋

五

六

葉の樹	うやくとひか南の川	ウクス
後々立てぬ	剛く刀く麻の如	後河連
悟るるま	浮きいふこまのり	名古屋
嵐 衣	お通う下天う起り	海に連
淋 抱て	及くあいのあて	二鶴
涼 産	おらう返せそ極上	紫雀
青 柳	午時あ吹てそ	古渡
水 舟	割本ひつて歯ヲ	大法
舟に板	浪見く糖つくと	一 枕
嵐くく	尋てはつと西	古渡

初 際	ふるれ陳けて	夫合
已 惚	中とろろくは	登龍連
困るる女	と野の夕ちう	名古屋
ウニレカ	裸くニツケ	山寄
砂 俵	水香るる風	古渡
出 茶ヤ	番の付練	大松町
面々	きものび	大松
岫 止	柳千の尻	康戸
ふくく笑	えく南	山寄
雨 乃 和	盤利 條 燿	

焚火 桂河つて面くらぬ
 新秋仲秋 段々まねるしりて秋
 除夜の子 とうり似と梅子梅色は
 常し金し 焚きようしく焚下ケル
 灼るのふ 戸櫓の干波たぬけん
 暖 けしとお石度二人有
 縄法の中 大々接木ヲ喚ておん
 子 枕 お外酒々破さるりぞお
 隠れ家 ぶくろナ一棹下々て有
 怪面り丸 汲立しヤのく吞つせり

大船町 桔梗色 芝草 呂山耕 山崎 初開 猿二 古渡 名古屋

夕空を晴 枕席よまふ見とけ
 雨の夜 灼てまのし新焼てお
 足附番不 ころの久きしおしらぬ
 ん 寝い 夢さよ寐色破ておん
 どの夜 めつけくおまうま
 枕草紙 朝めりの僕人よまぬ
 藤々え枕 葉は咲ても念雨の之
 カス笑い 備けおスヤのうさぎん
 梅くらき 丁種入ぬうけてる
 大船町 眼もめらぬ種まらぬ

大城戸 大船町 初開 大里村 空宮 萬場 猿二 鬼笑 中下 晴月

冬の月

湊入す。膳々宮く

大ニ 萩鷺

ハ丁エ

々々月身々々々々々々々

初栄

礼者

ハイニニニニニニニニ

西ニ 美吉村

ど代

杭先一ツ白の 々々々

三河 笑朝

若人の辯論

吾を吾々々々々々々々

干外

社政の傍

来厚の 々々々々々々

大ニ 犬山

鼻の船を

揚枝 々々々々々々

大ニ 数鷺

花見さつ

舟の舟子 々々々々

夫今 起宿

々々新

あらしの毒 々々々

夫今 哥石

まはす東

あらしの毒の気味々々

魚連

上 徳

味もかきまて 々々々

名吉屋

月 明り

子の大勢ある 々々々

甲子

道 之 後

料ヲ 枕形 々々々

犬山

金 屏 風

ふ 柿 々々々

、

人 々 母

たてあられて 出々々

ウタ 中東

け ち ち

夫々々々々々 通々々

桔梗志

ゆ ち ち

業法 末て 々々々

名吉屋

ゆ ち ち

名々々々々 の 枕々々

名吉屋

髪 心 心

名々々 の人々々々

鉄田

うき声
石三の山と
片まうて
五月雨
現川いせ
あ隣
まごかり
凡そそひ
船房の葉
孤之上
懺りく

やまの中く月々
通れまよふく
紙のきふが
くまうて
石三
おまの
米の
二人
忘れて
まよふ

名
む水
大城ア
中下
金由
丁
西川
自壁連
起石
甲新田
桔梗連

故の
若の
旅合
虚病
定有
まの
まの
小信
眼帝の娘

町へ
あち
内へ
何
二
極満
更
い
後の
ま

卓
古渡
花水
玉水
古渡
三川
吉淡
甲子
白壁連
犬山
村
河雪

夏の月
 うきまき
 音止て
 井さし
 長まほ
 寒月
 子納
 山の中
 五生
 ぬれそ

うつくしき事なきらん
 喰ふくしき極白
 さあけの輝引上る
 ぬれとけくさるる
 ぬれとけくさるる
 起てくさるる
 美味後食く答ふく
 又物もまほい極まら
 風多ておつと腕持
 赤くさるる

古渡
 左文
 名古屋
 桃花
 名古屋
 花を
 古渡
 名古屋
 名古屋
 白壁連

オイ心若方
 ちる牡丹
 洗ひ髪
 心を
 柿のむ
 丁のち
 長系十日
 冬きれ
 親分
 新妻

捨て苦くしれ入る
 雨降て日くさるる
 云白さるる
 風又ハおと向く
 馬牛一川へ
 精気入格る
 うらむ
 師て苦くさるる
 名古屋

下飯田
 大跡
 月士
 名古屋
 左文
 仁井
 大野
 松七
 呂耕
 濃戸

